

第6学年 国語科学習指導案

日時 平成18年10月18日(水) 5校時
児童 6年 男子8名 女子8名 計16名
指導者 菅野晋

1 単元名

表現を味わい、豊かに想像しよう 「やまなし」(光村図書 国語下 希望)

2 単元について

(1) 教材について

本単元は、学習指導要領「C 読むこと」の目標「目的に応じ、内容や要旨を把握しながら読むことができるようにするとともに、読書を通して考えを広げたり深めたりしようとする態度を育てる。」を受けて設定した。宮沢賢治の童話作品「やまなし」と、資料として添えられた宮沢賢治の伝記「イーハトーブの夢」の二つ教材から成る本単元は、指導事項「ウ 登場人物の心情や場面についての描写など、優れた叙述を味わいながら読むこと。」に適している。

「やまなし」は、「二枚の青い幻灯」として映し出された「五月」「十二月」という二つの場面から構成されている。谷川の底に棲むかきの目を通してこれらの場面を読むことにより、私たちを取り巻く世界で起こる現象の本質や理想を考えさせられる、象徴的で深い思想性をもつ作品である。二つの場面が意図的に並置されていることも、読者に対比的な読みを促し、作品の象徴性をより一層増すはたらきをしている。この手法から、「物事の本質は現象の一面を見ただけでは十分にとらえられない。現象を多面的かつ対比的にとらえたときに相対的に浮かび上がるものだ。」といった作者の世界観をうかがい知ることができる。作者の世界観は、独特な表現の仕方にも表れており、比喩表現、色彩語、擬声語・擬態語や言葉のもつ響きとリズムを読み味わうことで、イメージ豊かに作品の世界に迫っていくことができる。

資料「イーハトーブの夢」は、宮沢賢治の世界に深くかかわる筆者が小学生向けに書き下ろした評伝で、児童はここで作者の生き方や考え方を知り、「やまなし」で読み取ったことと重ね合わせ、より一層作品世界への興味と理解を深めることができる。

(2) 児童について

読書好きな児童が多く、お互いに本を紹介し合ったり、好みのジャンルや作家の本を読んだりしている。一方で、意識調査の結果から文学的文章の学習に対する関心の度合いにばらつきが見られ、読解力にも少なからぬ差がある。また、思いや考えを抵抗なく表すことができる児童は多いが、表現の効果やイメージを味わい、それを交流するという学習経験は、まだ十分とはいえない。表現を介して人物や情景について交流する学習は、児童の想像の幅や内容を豊かに広げることにつながるものと考えられる。

これまで、体験や実感をもとにして共感的に作品を読ませ、交流させることを意識して指導してきた。その結果、児童は、4月の「カレーライス」の学習で、登場人物の視点から、心情とその変化を共感的に読んだり、読者である自分の視点から叙述に即して主人公について考えたりすることができた。また、6月の「森へ」の学習で、効果的な表現からイメージをふくらませつつ、筆者の視点に立って心の動きを共感的にとらえたり、叙述に即して対話的に読みながら、筆者の自然観について考えたりすることができた。

具体的な指導としては、サイドラインや書き込みをさせることで、自分なりの読みをしっかりと

持たせ、小グループで意見を交流させた。これは、どの児童にも学習参加させ、全体での学びを個人に還元させることをねらったものである。また、「学び合い」の段階では、友達の考えに共感や補足をしながら発表できる児童が増えてきている。

(3) 指導にあたって

教材「やまなし」「イーハトーブの夢」の指導を通してつけさせたい力は、「情景や人物を叙述に即しつつ想像を働かせてとらえ、場面を対比させて読むこと」と、「作品に描かれた世界の意味を考え、作者の考え方や生き方を知ること」である。

「つかむ」段階の指導で、「やまなし」の文章構成をおおまかにとらえ、読者の視点(幻灯)からかきの視点(「五月」と「十二月」の場面)へ、最後に再び読者の視点へ移行していくことを確認する。また、児童の興味や疑問から課題を設定していくようにする。

「ふかめる」段階の指導においては、かきの心情や人物像を、児童自身の問題意識と関わらせながら共感的に読み取らせていく。そのために、「一人学び」としてサイドライン・書き込みをさせることにより、じっくりとテキストと対話しながら、叙述に即して考えを持てるようにしたい。また、擬声語・擬態語、色彩語、比喩表現などに着目させて情景を豊かに想像できるようにするとともに、表現の仕方によって受け取るイメージも異なってくることも取り上げたい。ただ、想像することは読者の知識・体験と関わりが深いため、大きく個人差が生じることが予想される。そこで、「学び合い」の段階に小グループでの話し合いを柔軟に取り入れて、短時間で考えを確認・修正し、全体での話し合いが深まるようにする。

以上の手立てをpushさえて「五月」と「十二月」の場面を読んだあとで、二つの場面を対比して読ませ、一見矛盾する現象に相違点や類似点を見つけさせながら、作者の理想や願いについて考えを深めさせていきたい。

人間の内面に深く関わる事柄に満ちた作品を生み出し、生きることへの切実な問いを繰り返した作者の人間像に気づき、さらに他の作品から作者の思いや理想を感じ取ることは、単に文学的文章の読み方を上達させるだけでなく、人間や世界に対するものの見方を育むことにつながると思う。そこで、「まとめる」段階では、資料「イーハトーブの夢」でつかんだ作者の生き方や考えをもとに他の作品を読み、感じたことや学習全体を通して学んだことを交流していきたい。

3 単元の目標

表現を手がかりに情景や人物について想像し、作品に描かれた世界について考える。
作者の考え方や生き方を知り、他の作品に興味を持って読む。

(1) 関心・意欲・態度

- ・情景や独特の表現に興味をもち、宮沢賢治の作品や生き方を知ろうとしている。

(2) 読む

- ・作品に描かれた情景や人物像を、叙述に即して想像しながら読むことができる。
- ・評伝の内容を読み取り、作者の作品や生き方を知ることができる。
- ・宮沢賢治の生き方や考え方を、視点にそってまとめることができる。

(3) 言語事項

- ・比喩的な表現の効果を考えることができる。

4 単元指導計画と評価計画 (12時間 本時 9 / 12)

| 過程 | 時 | 目 標 | 具体の評価規準 | | |
|------|---|---|--|---|--|
| | | | B (概ね達成) | A (十分達成の一例) | C (努力を要する子への手立て) |
| つかむ | 1 | ・「やまなし」を読み、感想や作者について発表することができる。 | 関：宮沢賢治やその作品について知っていることや初発の感想を発表しようとしている。(発言・ノート) | 人物像や表現の工夫に着目しながら感想や作者について発表しようとしている。 | 表現のおもしろさやかにかの様子について、感じたことを書かせる。 |
| | 2 | ・文章構成をとらえ、場面・人物・視点について知ることができる。 | 読：「まえがき」と「あとがき」、「五月」と「十二月」がそれぞれ対になっていることをとらえている。(発言・観察) | 対の文章構造になっていることや、視点が水の底にあって、それが、かにかの目に重なっていることに気づいている。 | 「まえがき」で、水の底を外から見ている視点が、「五月」で水の底から見た視点に変わっていることをイメージさせながらとらえさせる。 |
| ふかめる | 3 | ・「五月」のかにかの兄弟の様子や情景を想像しながら読むことができる。 | 読：会話文から、幼いかにかの様子を想像して書き込みをしたり、読み取ったことを発表したりしている。(発言・ノート) | 叙述を関連づけたり類推したりしながら、かにかの様子を想像して、書き込みや発表をしている。 | 会話文や色彩語などから、かにかの目に見えるものやその様子を話させたり、友達の発表を参考に読み取らせたりする。 |
| | 4 | ・かにかの兄弟が見たものや出来事を想像しながら読むことができる。 | 読：情景描写から、水に飛び込んできたものや魚の死を想像して書き込みをしたり、読み取ったことを発表したりしている。(発言・ノート) | 叙述を関連づけたり類推したりしながら、かわせみや魚の様子を想像して、書き込みや発表をしている。 | 比喩・擬態語・色彩語などから、かにかの目から見えるものやその様子を話させたり、友達の発表を参考に読み取らせたりする。 |
| | 5 | ・かにかの親子の様子や情景を想像しながら読み、「五月」はどんな世界かを考えることができる。 | 読：会話文からかにかの兄弟と父親の様子を想像するとともに、「五月」の場面の明暗のイメージに気づいている。(発言・ノート) | 叙述を関連づけたり類推したりしながら、かにかの様子を想像するとともに、「五月」の場面の明暗、生かし生かされる二重のイメージに気づいている。 | 会話文から、かにかにとってかわせみの出現や魚・クラムボンの死はどんな体験だったのかを考えさせたり、友達の発表を参考に読み取らせたりする。 |
| | 6 | ・「十二月」のかにかの兄弟の様子や情景を想像しながら読むことができる。 | 読：会話文から、成長したかにかの様子を想像して書き込みをしたり、読み取ったことを発表したりしている。(発言・ノート) | 叙述を関連づけたり類推したりしながら、かにかの様子を想像して、書き込みや発表をしている。 | 会話文から、かにかの様子や気持ちを想像させて話させたり、友達の発表を参考に読み取らせたりする。 |

| | | | | | |
|------|---------|--|--|---|---|
| | 7 | <ul style="list-style-type: none"> かにかの親子の様子や情景を想像しながら読み、「十二月」はどんな世界かを考えることができる。 | <p>読：会話文や情景描写から、落ちてきたものやかにかの様子を想像するとともに、「十二月」の場面の、明暗のイメージに気づいている。 (発言・ノート)</p> | <p>叙述を関連づけたり類推したりしながら、かにかの様子を想像するとともに、「十二月」の場面の明暗、生かし生かされる二重のイメージに気づいている。</p> | <p>会話文から、かにかにとってやまなしの登場はどんな体験だったのかを考えさせたり、友達の発表を参考に読み取らせたりする。</p> |
| | 8 | <ul style="list-style-type: none"> 「五月」と「十二月」を対比させて読むことができる。 | <p>読：「五月」と「十二月」の様子を対比し、相違点や類似点を見つけて書いている。(発言・ワークシート)</p> | <p>「五月」と「十二月」の様子を対比し、相違点や類似点に着目して、そこから新たな疑問を見つけて書いている。</p> | <p>「五月」と「十二月」の場面の違いについて、色彩や光の様子など、観点を具体的に提示して想起させる。</p> |
| | 9 本時 | <ul style="list-style-type: none"> 「対比」を通して出てきた疑問を考え、「やまなし」にこめた作者の思いについて読み取ることができる。 | <p>読：「五月」と「十二月」の疑問について考えを持ち、「やまなし」という題名の意味を考えている。 (発言・ワークシート)</p> | <p>「五月」と「十二月」の疑問を、現実の世界の問題に当てはめて考え、作品にこめた作者の思いについて考えている。</p> | <p>現実の世界で起きている問題が、「五月」と「十二月」に描かれたどんなこととつながっているかを考えさせる。</p> |
| まとめる | 10 | <ul style="list-style-type: none"> 資料「イーハトーブの夢」を読み、作者についてまとめることができる。 | <p>読：作者の生きた時代と考え方や作品について、分けてまとめている。 (ワークシート)</p> | <p>作者の生きた時代と考え方や作品を対応させてまとめている。</p> | <p>時間の流れと作者の行動がわかる語句や文を見つけさせて書かせる。</p> |
| | 11 | <ul style="list-style-type: none"> 作者の生き方や考え方をとらえ、他の作品に興味をもって読もうとすることができる。 | <p>関：作者の作品や生き方についての感想を発表したり書いたりしようとしている。 (発言・ノート)</p> | <p>読み取ったことをもとに、作者の作品や生き方について自分なりの感想を発表したり書いたりしようとしている。</p> | <p>かぎ括弧がつけられた部分や、「夢」などの語句が使われた文に着目させて、作者の人間像をとらえさせる。</p> |
| | 12 | <ul style="list-style-type: none"> 単元の学習を振り返り、宮沢賢治の作品や生き方から学んだことについてまとめ、交流することができる。 | <p>読：作品に描かれた宮沢賢治の思いや理想について考えを持ち、発表したり書いたりしている。 (発言・ノート)</p> | <p>作品で読み取ったことと、「イーハトーブの夢」で読み取った作者の思いや理想を関連づけながら自分の考えを発表したり書いたりしている。</p> | <p>「イーハトーブの夢」でとらえた作者の人間像が表れている「やまなし」の場面や文を考えさせる。</p> |

5 本時の指導（9 / 12）

（1）本時の目標

対比を通して出てきた疑問を考え、「やまなし」にこめた作者の思いについて読み取ることができる。

（2）指導にあたって

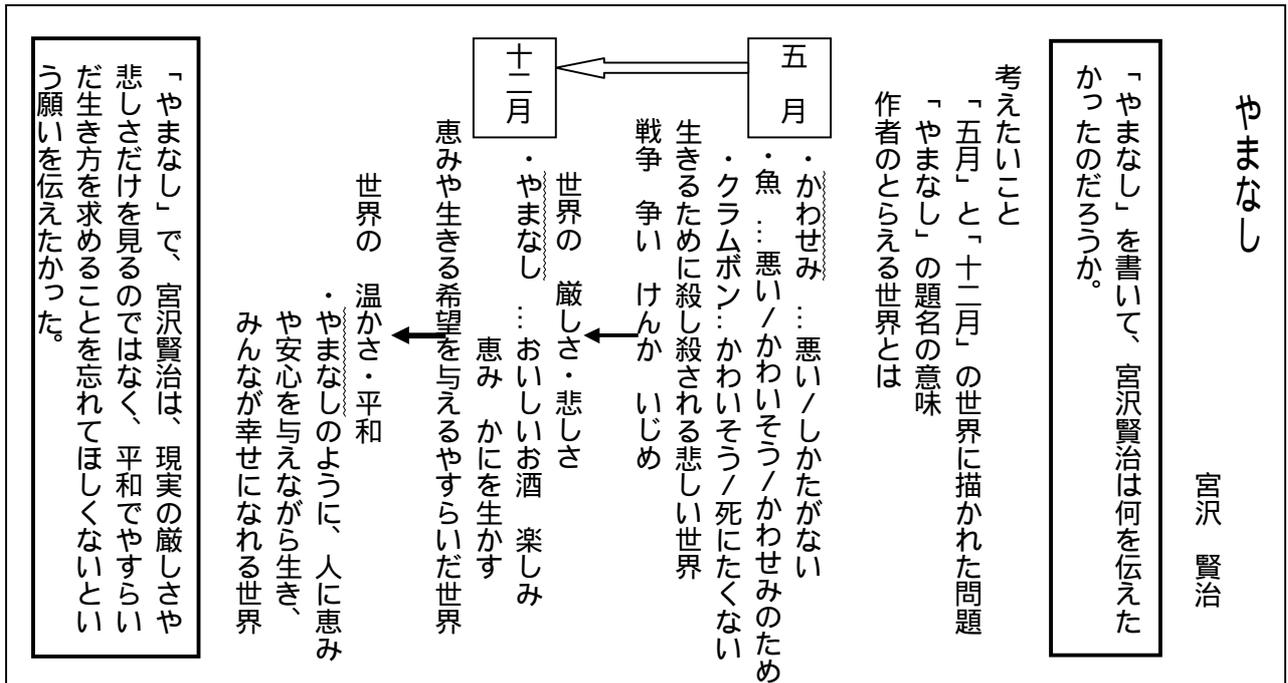
前時を終えた段階で児童から出された問題を集約して、本時の「学び合い」の柱（課題）を立てる。それらについて、予めワークシートに考えを書き込ませておき、これを「一人学び」とする。本時では、その書き込みをもとにした話し合いを中心とする学習活動を展開する。「学び合い」では、グループでの短い話し合いを柔軟に取り入れ、司会者中心に、全員が考えを話すことで学習を深めさせたい。

（3）本時の展開

| 過程 | 学 習 活 動 | 指導上の留意点 | 評 価 (準 備) |
|-----------------|--|---|---|
| つかむ 3分 | 1 前時の学習を想起する。 2 学習課題を確認する。 「やまなし」を書いて、宮沢賢治は何を伝えたかったのだろうか。 「五月」と「十二月」の世界に描かれた問題 「やまなし」の題名の意味 作者がとらえる世界とは | <ul style="list-style-type: none"> ・「五月」と「十二月」の場面对比して読んだことにより、見えてきたことを想起させる。 ・前時までの学習を終えて、新たに出てきた問題を提示する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・前時の板書 ・紙板書 |
| ふかめる 35分 | 3 「やまなし」にこめた作者の思いを読み取る。 (1)「五月」と「十二月」の世界の対比で出てきた疑問について話し合う。 (グループ学習・学び合い) (2)「やまなし」の題名の意味について話し合う。 (グループ学習・学び合い) (3) 作者が提示する世界について話し合う。(学び合い) | <ul style="list-style-type: none"> ・かわせみ、魚、クラムボンの順に、それぞれの立場に立つことについて考えさせる。 ・現実に起きている問題(戦争、いじめ等)にあてはめて考えさせる。 ・「十二月」に描かれた平和な世界を確認し、あらためて「五月」が描かれた意味を考えさせる。 ・自分が読み取ったことと比べながら発表を聞くようにさせる。 ・収奪・悲しみの世界の象徴である「かわせみ」ではなく、恵み・安らぎの世界の象徴である「やまなし」が題名になっている理由について話し合えるようにさせる。 ・これまで話し合ったことをもとに、「十二月」に示している作者の世界観をとらえさせる。 | <p>【評価】</p> <p>「五月」と「十二月」の疑問について考えを持ち、「やまなし」という題名の意味を考えている。 (発言・ワークシート)</p> |

| | | | |
|--------------------------------|---------------------|--|--|
| ま と め る 7 分 | 4 課題についてまとめる。 | ・書き出しを提示する。 | |
| | 5 学習を振り返る。 ・感想交流 | ・学習を振り返り、分かったり気づいたりしたことや、自分の学習のし方について振り返らせる。 | |
| | 6 次時の学習内容を知る。 | | |

(4) 板書計画



六年「やまなし」文章構成図

| 場面 | 情景 | 構成の要素 | 留意すべき言語事項 |
|------|----|--|--|
| まえがき | 五月 | <p>（場・視点の限定） 小さな谷川の底を写した、二枚の青い幻灯です。</p> <p>水面</p> <p>二ひきのかにの子どもの会話 「クラムボン かぶかぶ笑ったよ。」 * かにの兄弟の幼い様子 * 「クラムボン」は、命あるもの つうと銀の色の腹をひるがえして 一ぴきの魚が 「クラムボンは 死んだよ。」 「クラムボンは 殺されたよ。」 魚がまたつうともどつて 【魚の登場2】 にわかにはつと明るくなり、 日光の黄金 光のあみ</p> <p>魚がまるつきり黄金の光をまるつきりくちやくちやにして 【魚の登場3】 「何か悪いことを取ってるんだよ。」 そのかげはすべりました。【魚の登場4】 そのときです。</p> <p>青光りの ぎらぎらする鉄砲だまのようなもの コンパスのように黒くどがっている （魚を襲って食べたかわせみ）</p> <p>魚の白い腹がぎらつと光つて 【魚の死】 二ひきはまるで声も出さず、 居すくまってしまいました。 【お父さんのかにの登場】 「かわせみというんだ。 だいじょうぶだ、安心しろ。 おれたちはかまわないんだから。」 「魚かい。魚はこわい所へ行つた。」 「いい、いい、だいじょうぶだ。心配するな。そら、かばの花が流れてきた。 ごらん、きれいだろう。」 * 「青いもの」の正体を知っている お父さんのかには、兄弟の不安を 和らげ、目線を変えさせようとす</p> <p>光のあみ 花びらのかげはすべりました。</p> <p>水面の急転 場面の急転 不安で、 不気味な イメージ 場面の急転 元の明るい世界へ 不安・死の イメージ 楽しい イメージ 不安・死の イメージ</p> <p>水の底</p> <p>恐怖・死 のイメージ ジ</p> <p>恐怖の余韻 葬送の花の イメージ</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・ 幻灯 ・ クラムボン ・ かぶかぶ ・ つうと ・ ひるがえす ・ 下の方 ・ にわか ・ 日光の黄金 ・ 夢のように ・ 光のあみ ・ 黄金の光 ・ くちやくちやに ・ 底光り ・ 上の方 ・ すべる ・ 青光り ・ ぎらぎらする ・ 鉄砲だまのような ・ コンパスのように ・ ひるがえる ・ 居すくまる ・ はじ ・ かわせみ ・ かまわない ・ かば ・ 光のあみ ・ 花びらのかげ ・ すべる |

